

【神への礼拝は妨げられてはならない】

ヨハネによる福音書 2 章 13-22 節

13 ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。

14 そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。

15 イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、

16 鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」

17 弟子たちは、「あなたの家と思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。

18 ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。 19 イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」

20 それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。

21 イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。

22 イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、

聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

* * * * *

「宮清め」と呼ばれる出来事が記録されています。

この記事はマタイにもマルコにも記録されています。

ところが、この箇所をよく読むと、ヨハネの福音書とマタイ、マルコ、ルカの福音書に少し相違があることに気づきます。

ヨハネの福音書では「わたしの父の家を商売の家とするな」ですが、マタイ、マルコ、ルカでは「わたしの家は祈りの家」と

いいます。また「神殿を壊してみよ。3日で建て直す」この言葉は、ヨハネによる福音書だけです。

さらに境内で売られた羊や牛もこの箇所だけです。

もう一つ、ヨハネ福音書の神殿の出来事は、イエス様の宣教の序盤に置かれていることです。

少し詳細をみていきましょう。

実は、こうした商売や両替が行われていた場所は「異邦人の中庭」と呼ばれる場所で行われていました。

異邦人の中庭とは、割礼を受けてはいないがユダヤ教を信じる人たちは神殿の中に入れなかったため、

そのような人たちが祈るための場所です。

そんな神聖な場所が商売や両替で混雑し異邦人のための祈りの雰囲気が保たれていませんでした。

つまり、異邦人たちの礼拝が著しく妨げられていたのです。集まる場所も祈る場所も商売人たちに占拠され

しかも、彼らからの両替をしなければ、異邦人たちは礼拝ができなかったのです。捧げ物としてのお金は礼拝用の

特別なものが必要だったからです。

まるで神様が「あなたがたのお金をしっかり支払わなければ、あなた方には礼拝の資格はない」と言っているかのような

商売人たちの振る舞いがあまりに酷かったのだと思います。

しかも、それは聖書による恵みの約束に大きく反する行為でした。

長いですが、イザヤ書 56 章を読んでみましょう。

イザヤ書 56 章

1 主はこう言われる。

正義を守り、恵みの業を行え。

わたしの救いが実現し

わたしの恵みの業が現れるのは間近い。

2 いかに幸いなことか、このように行う人

それを固く守る人の子は。

安息日を守り、それを汚すことのない人

悪事に手をつけないように自戒する人は。

3 主のもとに集って来た異邦人は言うな

主は御自分の民とわたしを区別される、と。

宦官も、言うな

見よ、わたしは枯れ木にすぎない、と。

4 なぜなら、主はこう言われる

宦官が、わたしの安息日を常に取り

わたしの望むことを選び

わたしの契約を固く守るなら

5 わたしは彼らのために、とこしえの名を与え

息子、娘を持つにまさる記念の名を

わたしの家、わたしの城壁に刻む。

その名は決して消し去られることがない。

6 また、主のもとに集って来た異邦人が

主に仕え、主の名を愛し、その僕となり

安息日を守り、それを汚すことなく

わたしの契約を固く守るなら

7 わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き

わたしの祈りの家の喜びの祝いに

連なることを許す。

彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら

わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。

わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。

8 追い散らされたイスラエルを集める方

主なる神は言われる

既に集められた者に、更に加えて集めよう、と。

ここには異邦人たちへのすばらしい恵みの言葉が書かれていて、これが神殿において

なされる必要があったのです。しかし、実際は、それは行われてはいませんでした。

イエス様の義憤は、まさにここにありました。

ユダヤ人たちは驚き、怒り、イエス様に食ってかかります。自分たちの商売の邪魔をされたからです。

18 ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。 19 イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」

20 それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。

21 イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。

こんなことをする正当性はあるのか？とユダヤ人たちはイエス様に問い詰めます。

イエス様は「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」と答えました。

しるしを求めるユダヤ人に対して「3日で建て直す」と言ったイエス様の言葉には、ご自身が生きる生贄となることを示唆した言葉といわれます。そのしるしの先駆けとして、他の福音書にはない神殿で売られていた羊と牛を付加したと思われます。

聖書の中でこれ程憤られるイエス様の姿は見られないのです。

イエス様の言葉の本意は

「礼拝を妨げているものを排除し、礼拝の民が礼拝できるようにしなさい」

「私は、自分のいのちを捧げ物として、神にささげ、それによって人々が自由に

礼拝できるようにしましょう」

という決意を表明したのだと思います。

水を葡萄酒に変えるという「しるし」があり、不完全な清めがイエス様によって完成され喜びに変えられるということが前回語られました。

今回は「イエス様がやがて十字架と復活」という「しるし」とおして、私たち、誰でもが自由に礼拝者として神の祝福を受け取り、神への感謝を捧げながら生きられる道を開かれることを暗示なさった出来事と理解することができるでしょう。

神は、真の礼拝者を求めておられます。そして、妨げられずに礼拝できる人生を開いてくださいます。イエス様の「死といのち」が、まさに、そのための「道」なのです。

* * * *

MACF 礼拝の Youtube 映像はこちらです。

<https://youtu.be/I8eGhocHIXY>